



左／グラスウールの充填が難しい筋交いのある壁は、初めに断熱材を半分の厚みに割り、筋交いの形を取ってから、半分の1枚で挟み込むように被せることで、断熱欠損を防いでいる

右／金物のある隙間にはコーキングを施し、徹底的に気密性を高めている

杉浦さんは国内で輸入住宅の需要が高まっていた1990年代、カナダ政府が開発した省エネルギーで高い居住性のよい2×4住宅「R-2000」の構造を現地で学んだ。R-2000は、現在、普及する高断熱・高気密住宅の先駆的存在で

funナカムラは、京都府・長岡京市で注文住宅と高断熱工事を専門に行う工務店。昭和40年の創業時には公共事業が主力だったが、現社長の杉浦成史さんの就任を機に住宅に軸足を移し、高断熱住宅に力を注ぐようになった。

日本の風土に合った
高断熱住宅とは

あり、その厳しい気密基準は現在の住宅にも引けを取らない。

しかし、当時の杉浦さんは「湿度の高い日本に欧米型住宅のような断熱は適さないのではないか？」と疑問を抱いており、帰国後も高断熱住宅の分野に参入することはなかった。転機が訪れたのは7年ほど前。高断熱住宅の機運の高まりから再び高断熱に興味を持った杉浦さんは、新木造住宅技術研究協議会（以下、新住協）に加盟した。「過去の経験から、高断熱住宅の建て方は理解していましたが、新住協の勉強会で、なぜ内側に防湿シート、外側に透湿防水シートを張り、通気層を設けなければいけないのか」といった高断熱住宅の構造を裏付ける理論を知ることができました」（杉浦さん）。

また、杉浦さんと施工を担当する大工2名は、新住協の講師から実際に高断熱住宅を建てながら施工のレクチャーを受け、断熱材の加工の仕方や美しい仕上げ方など、確かな技術を取得した。「見えない部分ですが、仕上りの美しさは、京都一だと自負しています」と杉浦さん。断熱材の加工や気密の取り方など学んだことを忠実に守り、断熱欠損のない充填方法や気密部材の使用や金物の隙間のコーキングなど、細部まで気を抜かない丁寧な施工を心がけている。

高断熱住宅は
施工者の理解が必須

同社が建てる住宅の標準仕様は、床はスタイロフォーム120mm、壁は高性能グラスウール「太陽SUN」120mm、天井は吹込み用グラスウール「ニューダンプロ」300mm、天井敷き込みの場合、高性能グラスウール「太陽SUN」120mm×2枚を充填している。第3種換気でのQ値は1.9〜1.7となり、雪が少なく、夏の湿度が高い京都では、十分な快適性を担保できる。換気を第1種とすればQ値は1.6〜1.4となり、北海道レベルの基準（断熱等級4）に達する。以前は別の断熱材を使用していたが、現在はパラマウント硝子工業の「太陽SUN」を採用。コシがあり、施工性が高いこと、痒みなどの不快感が少ない点が気に入っている。「以前は、施工者から『グラスウールを』使いたくない」と言われることも多かったのですが、『太陽SUN』を使いだしてから不満の声を聞かなくなりました」。

「住宅の資産価値や快適性を担保するには、施工者が施工の意味を理解したうえで丁寧に施工することが大事」と杉浦さん。今後もしっかりと住む人ともに幸せになれる家づくりを目指していきたいと考えている。

製品紹介

PRODUCTS



あったかピンクのグラスウール

ピンクが目印の高性能グラスウール断熱材。熱伝導率0.038[W/(m・K)]で、豊富なサイズをラインアップ。



Information パラマウント硝子工業株式会社 TEL 03-4582-5370 / www.pgm.co.jp



上／杉浦社長と共に、プランニングやインテリアデザインに携わる妻の杉浦知美さん（写真左）。夫婦二人三脚で家づくりを行う
下／ナチュラルなテイストで統一した内観。冷暖房はエアコン、換気は第1種熱交換型の採用が標準仕様だ

上／新築・リフォーム問わず、建て主からお礼の連絡をもらうこともしばしば。「壁と床は既存のまま、天井のみに『太陽SUN』120mm厚を2枚充填した断熱改修をしたのですが、オール電化にしても光熱費がとて安くなったという嬉しいお知らせをいただきました」（杉浦さん）
下／同社が手掛けた住宅。白色の外壁と水色の木塀がかわいらしい印象を与える

fun ナカムラ

がんばる住宅会社を応援！

Presented by パラマウント硝子工業 Vol. 27

BUILDERS' REPORT

つくり手と住まい手どちらにも優しい家づくり

